利用者意識からみた商店街の現状並びに課題について

商店街におけるバリアに関する研究

CURRENT STATUS OF SHOPPING STREETS AND ISSUES TO BE RESOLVED
FROM THE PERSPECTIVE OF USERS CONSCIOUSNESS

Study of barriers at shopping streets

野田 りさ*, 川岸 梅和**

Risa NODA and Umekazu KAWAGISHI

As shopping streets have a variety of characteristics, it would be difficult to uniformly incorporate the concept of "barrier-free" access and universal design. In order to make shopping streets (which are city center environments) into spaces that facilitate their use by anyone, it is extremely important to determine the unique characteristics of each streets from the user's perspective, and to be aware of the trends in barriers as perceived by users. This study examined four shopping streets to determine the barriers that were perceived by users, from the perspective of both building environments and city center environments to gain a basic understanding of problems and issues at shopping streets.

Keywords : User, User Consciousness, Barrier, Shopping Street, Normalization

利用者, 利用者意識, バリア, 商店街, ノーマライゼーション

1. 研究の背景と目的

近年、我が国の高齢者人口は約3千万人（高齢化率：24.1%、2012年10月現在）という超高齢社会を迎えていると同時に、中心市街地の衰退が大きな問題となっている。かつて人々の賑わいで活気に溢れていた商店街においても衰退化の状況は顕著に表れている。

「平成21年度商店街実態調査報告書」によると商店街の景況について「繁栄している」と回答した商店街と「衰退している」と回答した商店街が実施している事業で最も差異がある事業はバリアフリー（以下、BF）事業と報告されており、小さな子どもから高齢者まで誰もが安心して快適に利用できる商店街の環境づくりが今後の商店街にとって重要であると共に、利用者が利用しづらいと感じている商店街の問題点や課題を把握し、改良・改善に繋げていくことは今後の商店街の発展に寄与すると言えよう。

川内は、著書「ユニバーサル・デザインの仕組みをつくる スパイラルアップを実現するために」¹⁾の中で、ユニバーサルデザインの考え方について障がい者や高齢者等ハンディキャップを抱える人の問題（特別な人の為の特別な問題）と捉えられがちであることを指摘すると共に、既存のものに対する利用者の参画と継続的な改善の必要性を述べている。既存の商店街においても、誰もが安心して快適に過ごせるユニバーサルデザイン（以下、UD）に基づいた環境づくりを実践する為には、利用者並びに運営者の参加と協同・協働による方策の検討が必要である。そこで本研究では、研究の前段と

して、利用者が意識する商店街の問題点や課題を明らかにすることを目的とし、全世代を対象とした利用者が商店街を構成している施設^{注1)}（建物空間）並びに商店街（外部空間）を利用する際に意識するバリア^{注2)}について調査し、整理・報告する。加えて、利用目的の側面から利用者が意識するバリアの傾向について明らかにし、比較を通じて、利用しづらいと感じている商店街の問題点や課題に関する基礎的知見を得ると共に、商店街で取り組むことが可能な方策について考察することを目的としている。

2. 既往研究と本研究の特徴

本研究に関連する既往研究について、商店街における利用者実態の側面からは、消費者の購買地選択過程の中で消費者購買行動の特性を明らかにした研究^{2) 3)}、購買交通手段の観点から消費者購買行動や購買行動変化のモデル化シミュレートを行った研究^{4) 5)}、都心商店街の利用者特性を利用者属性や来街目的等を明らかにした研究⁶⁾、通行量の経年的変動実態に関する研究⁷⁾、商店街の座りスペース利用の実態や休憩スペースの実態について明らかにした研究^{8) 9)}、来訪者の回遊行動と施設種構成を経年変化の側面から考察した研究¹⁰⁾、祭事における商店街来街者の座り空間に関する研究¹¹⁾等が行われている。またBFやUDに通じる既往の研究は数多く、その中でも商店街を対象とした研究では、小売店舗から商店街や商業地区においてBFを促進する方策について検討した研究¹²⁾、高齢者の商店街

* 日本大学大学院生産工学研究科建築工学専攻
博士後期課程・修士(工学)** 日本大学生産工学部創生デザイン学科
日本大学大学院生産工学研究科建築工学専攻
教授・博士(工学)Graduate Student, Dr. Course, Department of Architecture and Architectural Engineering,
Graduate School of Industrial Technology, Nihon Univ., M. Eng.
Prof., Department of Conceptual Design, College of Industrial Technology, Department of
Architecture and Architectural Engineering, Graduate School of Industrial Technology,
Nihon Univ., Dr. Eng.

利用実態について明らかにした研究¹³⁾¹⁴⁾、商店街における車いす使用者への配慮の実態に関する研究¹⁵⁾¹⁶⁾、高齢者や車いす使用者を対象とし、商店街の問題点を明らかにした研究¹⁷⁾、商店街の課題に対する利用者（高齢者）と商店主の意識について考察した研究¹⁸⁾¹⁹⁾等が行われている。

しかし、商店街において全世代を対象とした利用者が意識するバリアに視座を置き、利用目的の側面から商店街の問題点や課題を報告し、さらに商店街で取り組むことが可能な方策について考察した例はなく、本研究の独自性もここにあると考える。

3. 研究の方法

本研究は、4 タイプの商店街において全世代の利用者を対象とし、施設（建物空間）及び商店街（外部空間）の両面から利用者が意識するバリアに視座を置き、調査・報告する。各商店街における問題点及び課題について明らかにする上で、調査手順も踏まえた研究の流れを以下に示す。①調査対象商店街の成り立ち、施設概要、街区状況等、文献及び目視・実測調査を実施する。②利用者属性に関連する事項（利用目的等を含む）、施設（建物空間）及び商店街（外部空間）で意識するバリアについて利用者に対する聞き取り調査を実施する。③利用者が意識するバリアを4 分類別に整理し、それぞれのバリアに対する検証を行う。加えて、利用目的別に各商店街の利用者が意識する問題点や課題について考察する。

尚、調査対象とする4 タイプの商店街に関して、「平成21 年度商店街実態調査報告書」で定義されている①近隣型商店街（最寄品中心の商店街で地元主婦が日用品を徒歩又は自転車などにより買物を行う商店街）、②地域型商店街（最寄品及び買回り品が混在する商店街で近隣型商店街よりもやや広い範囲であることから、徒歩、自転車、バス等で来街する商店街）、③広域型商店街（百貨店、量販店を含む大型店があり、最寄品より買回り品が多い商店街）、④超広域型商店街（百貨店、量販店を含む大型店があり、有名専門店、高級専門店を中心に構成され、遠距離から来街する商店街）の条件に該当する4 つの関東圏の商店街の事例を取り上げ、調査・分析を行う。

4. 調査の概要

4.1 調査方法^{注3)}

4.1.1 目視・実測調査

各商店街において商店街を構成している施設業種や建物デザイン等に加え、問題箇所について、現地による目視・実測調査を行った。

4.1.2 利用者に対する聞き取り調査（表1・2・3）

調査は10：00～18：00 の間に、各商店街内を往来する利用者に対し、直接聞き取る方法で実施した。調査対象者は利用者が意識するバリアを見出す為の調査として、全世代の通行者に対し、利用者属性に関する事項（含利用目的）や、施設（建物空間）及び商店街（外部空間）利用で不都合又は使いづらさを感じる箇所の有無（バリアの有無）を聞き、有ると回答した対象者に事前に用意したバリア項目^{注4)}の中で、具体的に意識するバリアに関する聞き取りを実施^{注5)}した。その際、自由な意見として「その他」の項目を設け、商店街ごとに異なる意見の確認を行った。尚、調査対象者数を表2 に示し、表2 に含まれるハンディキャップを抱える人の内訳を表3 に示す。

表1 利用者に対する聞き取り調査概要

表2 調査対象者概要（全体）

調査時間：10：00～18：00 天候：晴れ	10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代以上		合計
	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日	
①大久保商店街 (習志野市大久保) 調査期間：2010年8月	男性		11	12	16	15	10	10	10	12	11	10	10	10	5	5	83
	女性		23	31	20	20	22	21	20	20	20	10	10	5	5	76	167
②津田沼1丁目商店街 (習志野市津田沼) 調査期間：2010年8月	男性		11	10	11	10	10	10	10	11	10	10	10	10	5	5	85
	女性		21	21	20	20	20	21	20	20	20	10	10	5	5	131	211
③船橋駅前商店街 (船橋市本町) 調査期間：2011年8月	男性		12	13	11	10	10	11	10	11	11	11	12	12	5	5	81
	女性		24	24	20	21	21	21	21	22	24	10	11	5	7	96	191
④銀座通り (東京都中央区銀座) 調査期間：2012年8月	男性		13	10	12	11	12	10	12	11	12	10	14	11	13	12	93
	女性		23	23	22	23	22	23	22	25	25	10	10	5	5	93	180
⑤銀座通り (東京都中央区銀座) 調査期間：2012年8月	男性		20	14	11	14	13	10	11	11	12	13	12	12	5	6	96
	女性		34	24	25	23	22	25	22	24	24	10	11	11	186	186	90
⑥銀座通り (東京都中央区銀座) 調査期間：2012年8月	男性		10	12	10	9	10	14	11	10	10	10	10	10	5	5	79
	女性		22	19	20	25	20	20	20	20	20	10	10	5	5	79	156
⑦銀座通り (東京都中央区銀座) 調査期間：2012年8月	男性		10	10	12	11	12	10	10	10	10	11	10	10	5	5	79
	女性		20	23	24	20	20	20	21	20	20	10	10	5	5	79	158

表3 調査対象者概要（ハンディキャップを抱える人の内訳）

子育て世代		肢体不自由者	その他
①	ベビーカー使用者(20代・女性)：1名	福祉用具★1未使用者(80代・女性)：1名	-
	ベビーカー使用者(30代・女性)：5名	福祉用具使用者(70代・男性)：1名	
②	ベビーカー使用者(30代・女性)：7名	福祉用具未使用者(50代・男性)★2：1名	白杖使用視覚障がい者(50代・女性)：1名
	妊婦(20代・女性)：1名	福祉用具未使用者(70代・女性)：1名	弱視(60代・男性)：1名
③	妊婦(20代・女性)：1名	福祉用具使用者(60代・男性)：2名	手押しカート使用者(60代・女性)：1名
		福祉用具使用者(70代・男性)：2名	手押しカート使用者(70代・女性)：1名
④	妊婦(30代・女性)：1名	福祉用具使用者(80代・男性)：4名	
		福祉用具使用者(60代・女性)：1名	
⑤	妊婦(30代・女性)：1名	福祉用具使用者(70代・女性)：5名	
		福祉用具未使用者(50代・女性)：1名	弱視(60代・女性)：1名
⑥	妊婦(30代・女性)：1名	福祉用具使用者(60代・男性)：1名	弱視(80代・女性)：1名
		福祉用具使用者(70代・女性)：1名	車椅子介助者(20代・女性)：1名
⑦	妊婦(30代・女性)：1名	福祉用具未使用者(70代・男性)：1名	車椅子介助者(50代・女性)：1名
		福祉用具未使用者(80代・女性)：1名	外国人(20代・女性)：1名
⑧	妊婦(30代・女性)：1名	福祉用具使用者(80代・男性)：1名	外国人(70代・男性)：1名
		福祉用具使用者(70代・女性)：1名	

★1 「福祉用具法」において「心身の機能が低下し、日常生活を営むのに支障がある老人、または心身障害者の日常生活の便宜を図るための用具及びこれらの者の機能訓練のための用具ならびに補装具」と定義されており、本調査対象者は主に「杖」等の「歩行補助杖」を使用している。
★2 過去に車椅子使用の経験があり、現在は福祉用具を使用していないが、歩行が不自由である。
(凡例) ①大久保商店街 ②津田沼1丁目商店街 ③船橋駅前商店街 ④銀座通り

4.2 調査対象地区（表4・5、図1）

調査対象の商店街は以下の通りである。また目視・実測調査による各商店街の概要（施設の業種割合^{注6)}等）を表4・5、図1に示す。

1) 大久保商店街：千葉県習志野市大久保1・3丁目地区^{注7)}

習志野市大久保1・3丁目地区は大学や高校等の文教施設を有している。大久保商店街は京成大久保駅と日本大学の間に位置し、通学・通勤者や近隣居住者が行き交う近隣型商店街である。業種に関して、日用品等の最寄品を扱う「販売施設・店舗」が最も多く、次いで「飲食施設」が多い構成になっている。メイン通りは許可車以外15時～18時の間、通行不可且つ一方通行の時間式歩車併用道路である。

2) 津田沼1丁目商店街：千葉県習志野市津田沼1丁目地区^{注7)}

習志野市津田沼1丁目地区は、習志野市の玄関と位置付けられるJR津田沼駅等を有しており、近年は「習志野市交通バリアフリー基本構想」事業に伴い、駅のペDESTリアンデッキと地上を結ぶエレベーター（以下、EV）の設置等の事業が行われている。3つの通りで構成された商店街だが、ぶらり東通り（メイン通り）に客は集中する傾向があり、業種に関して、「飲食施設」が最も多く、次いで多い「販売施設・店舗」には量販店（イオン等）を含み、最寄品の他に買回り品を扱う地域型商店街である。ぶらり東通りは面的歩車分離道路であり、通り沿いは5、6層程度のビルが建ち並ぶ。

3) 船橋駅前商店街：千葉県船橋市本町1・4丁目地区^{注7)}

船橋市本町1・4丁目地区はJR船橋駅・京成船橋駅や百貨店（西武百貨店）、大型量販店（船橋LOFT）を有しており、「交通バリアフリー法に基づく船橋市移動円滑化基本構想」において重点整備地区に指定されている。また、業種に関して、「飲食施設」が最も多い広域型商店街である。メイン通りは完全な面的歩車分離道路であり、歩道沿いに船橋市の駐輪場が設置されている。

4) 銀座通り：東京都中央区銀座1～8丁目地区^{注7)}

東京都中央区銀座1～8丁目地区は東京メトロ銀座駅、百貨店（松坂屋・三越等）や様々な有名ブランド等の高級専門店を多数有しており、世界的にも有名な超広域型商店街である。業種に関して、「事務施設・オフィス」、「飲食施設」の順で多く、面的歩車分離道路であるが土日祝日の午後(12時～18時)は歩行者天国を実施している。

表5 商店街の概要

	①大久保商店街	②津田沼1丁目商店街	③船橋駅前商店街	④銀座通り
商店街の成り立ち	戦前から日本陸軍御用達の商人で形成され、写真館や時計店、食堂等が立ち並び、発展した。	大正期、鉄道連絡の便であった津田沼地区は、商店街や飲食店等が形成され、戦後昭和期に大型量販店が出現し、発展した。	江戸期、船通町として繁栄した後本町通りが中心になったが、1960年代に入ると船橋駅や百貨店の建設に伴い、駅前通りを中心に発展した。	江戸期に銀座待合所として成り立った銀座は呉服店等の商店施設、芝居小屋等の娯楽施設を中心に構成され、時代で商圏を変えながら発展した。
施設の営業年数	1年未満 2.1% 1年以上5年未満 19.9% 5年以上10年未満 17.7% 10年以上20年未満 19.1% 20年以上30年未満 8.5% 30年以上40年未満 9.2% 40年以上50年未満 8.5% 50年以上 14.9%	1年未満 4.6% 1年以上5年未満 27.7% 5年以上10年未満 21.5% 10年以上20年未満 12.3% 20年以上30年未満 15.4% 30年以上40年未満 9.2% 40年以上50年未満 0.0% 50年以上 7.7%	1年未満 0.0% 1年以上5年未満 23.7% 5年以上10年未満 35.6% 10年以上20年未満 10.2% 20年以上30年未満 8.5% 30年以上40年未満 5.1% 40年以上50年未満 5.1% 50年以上 11.9%	1年未満 1.4% 1年以上5年未満 18.8% 5年以上10年未満 17.4% 10年以上20年未満 24.6% 20年以上30年未満 5.8% 30年以上40年未満 4.3% 40年以上50年未満 1.4% 50年以上 24.6%
利用者の年齢層	20代 32.8% 30代 35.2% 40代 40.0% 50代 46.4% 60代 48.8% 70代 18.4% 80代以上 10.4%	20代 34.5% 30代 63.8% 40代 50.0% 50代 19.0% 60代 10.3% 70代 10.3% 80代以上 5.2%	20代 31.6% 30代 50.9% 40代 33.3% 50代 31.6% 60代 24.6% 70代 8.8% 80代以上 7.0%	20代 12.3% 30代 46.2% 40代 58.5% 50代 38.5% 60代 23.1% 70代 3.1% 80代以上 0.0%

表4 商店街の施設業種割合

	①大久保商店街	②津田沼1丁目商店街	③船橋駅前商店街	④銀座通り
施設数	1	6	11	275
%	0.4%	4.5%	9.2%	32.4%
製造業施設	1	0	0	0
事務所・オフィス	2	0.8%	3.0%	1.8%
金融施設	95	40.3%	33	27.5%
販売施設・店舗(含百貨店等)	37	15.7%	21	18.8%
その他の商業・業務施設	9	3.8%	17	12.8%
病院	3	1.3%	5	3.8%
その他の医療施設	63	26.7%	38	28.6%
飲食施設	13	5.5%	9	6.8%
娯楽施設	3	1.3%	1	0.8%
その他の教育・科学・情報施設	9	3.8%	7	5.3%
通信施設(郵便局等)	1	0.4%	1	0.1%
休憩・作業施設	236	100%	133	100%
合計	236	100%	133	100%

図1 調査対象商店街概要（目視・実測調査結果）

5. 利用者が意識するバリアについて

5.1 施設利用において意識するバリア（図2・3、表6・7）

利用者が施設（建物空間）利用で意識するバリアに関して、大久保商店街は29.8%、津田沼1丁目商店街は46.0%、船橋駅前商店街は21.4%、銀座通りは26.9%が意識するという結果を得た。また、世代別にみると、大久保商店街、銀座通りでは60代が全体平均より意識する傾向が強いが、その他の商店街においては60代以上の高齢層が全体平均もしくは全体平均以下である傾向がみられる。

具体的には、全ての商店街において、物理的なバリアである「入りの段差」が共通して最も高い割合を占めており、次いで、大久保商店街は「建物前の駐輪や駐車」が23.2%、津田沼1丁目商店街は最も高い割合を占める「入りの段差」の割合と近い「階段」が39.3%、船橋駅前商店街は「施設の広さ（狭い）」が24.7%、銀座通りは「階段」が29.8%で高い割合を占めている。また、男女別に比較すると、大久保商店街では男性は「階段」が高い割合を占めているのに対し、女性は「建物前の駐輪や駐車」、「店員の接客態度」が高い割合を示しており、船橋駅前商店街では男性は「入りの段差解消ステップ」が高い割合を占めているのに対し、女性は「施設

の広さ（狭い）」が高い割合を占める等、意識するバリアの割合順に多少の差異がみられるが、「入りの段差」に関しては男女共通してバリアとして意識する傾向がみられた。特に、「入りの段差」と回答した利用者の年齢についてみると、大久保商店街では60代以上の高齢層、津田沼1丁目商店街では20代30代や40代50代の中年層、船橋駅前商店街では20代30代、中年層に加えて70代以上の高齢層、銀座通りでは30代や中高年齢層の回答が多かったが、いずれも全ての世代で回答があり、表7より子育て世代、肢体不自由者（杖使用者）や車いす連れにおいても意識する傾向がみられた。以上のことから、商店街の規模や性別、年齢、問題箇所数や段差高さに関わりなく、利用者が施設の「入りの段差」をバリアとして意識する傾向が顕在していると言えよう。一方で、目視・実測調査結果より、大久保商店街で回答が多かった「建物前の駐輪や駐車」の箇所数は大久保商店街が最も多く、利用者意識と相関性があると言えよう。さらに、津田沼1丁目商店街、銀座通りで回答が多かった「階段」に関して、外階段のみの施設アクセスやEVに至るまでのアクセスにおいて数段の階段があるビルが点在していることが要因と考えられる。

表6 施設（建物空間）で意識するバリア（男女別・複数回答）

商店街	性別	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
① 大久保商店街	男性	入りの段差	階段	建物前の駐輪や駐車	施設の広さ（狭い）	入りの段差解消ステップ	ドア幅	施設内のサービス	
	N=41	26.8%	22.0%	17.1%	17.1%	14.6%	14.6%	14.6%	
	女性	入りの段差	建物前の駐輪や駐車	店員の接客態度	入りの段差解消ステップ	施設の広さ（狭い）			
	N=54	40.7%	27.8%	18.5%	13.0%	11.1%			
② 津田沼1丁目商店街	男性	階段	入りの段差	ドアの形状（引き戸）	ドア幅	ドアの形状（開き扉）	施設の広さ（狭い）		
	N=76	43.4%	32.9%	18.4%	10.5%	10.5%	10.5%		
	女性	入りの段差	階段	ドアの形状（開き扉）	施設の広さ（狭い）				
	N=87	47.1%	35.6%	20.7%	11.5%				
③ 船橋駅前商店街	男性	入りの段差	入りの段差解消ステップ	ドア幅	建物前の駐輪や駐車	階段	施設の広さ（狭い）	店員の接客態度	他の利用者とのやり取り
	N=30	46.7%	30.0%	16.7%	13.3%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%
	女性	入りの段差	施設の広さ（狭い）	建物前の駐輪や駐車	施設の広さ（狭い）	ドアの形状（引き戸）	ドアの形状（開き扉）		
	N=47	40.4%	34.0%	12.8%	10.6%	10.6%			
④ 銀座通り	男性	入りの段差	階段	施設の広さ（狭い）	25.6%	25.6%			
	N=39	28.2%	25.6%	25.6%					
	女性	入りの段差	階段	施設の広さ（狭い）	20.0%	20.0%	13.3%	11.1%	
	N=45	42.2%	33.3%	22.2%	20.0%	20.0%	13.3%	11.1%	

※男性・女性共に共通している事項

図2 施設（建物空間）で意識するバリアの有無（年代別）

図3 施設（建物空間）で意識するバリアの種類（年代別・複数回答）

表7 施設（建物空間）で意識するバリア（ハンディキャップを抱える利用者別）

バリアについて		有無																備考	
子育て世代		有	無	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p
①	ベビーカー使用者	20代 女性	○	○															子ども用の小さいかごが欲しい
		30代 女性	○	○															
		30代 女性	○	○															
		30代 女性	○	○															
		30代 女性	○	○															EVが壊れており、土日に混雑
		30代 女性	○	○															EVが少ない
		30代 女性	○	○															
		30代 女性	○	○															
		30代 女性	○	○															
		30代 女性	○	○															
		30代 女性	○	○															
		30代 女性	○	○															
②	肢体不自由者	有	無	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p
	杖無し	80代 女性	○	○															
	杖有り	70代 男性	○	○															
	※	50代 男性	○	○															駐車場付近の坂の傾斜
	杖無し	70代 女性	○	○															
		60代 男性	○	○															
		70代 男性	○	○															施設前のボールなど
		70代 男性	○	○															
		80代 男性	○	○															
		80代 男性	○	○															
		80代 男性	○	○															
		80代 男性	○	○															地震(災害時)があった時が心配
③	杖無し	50代 女性	○	○															
	杖有り	60代 男性	○	○															
		70代 男性	○	○															
		70代 男性	○	○															
		80代 男性	○	○															
		80代 男性	○	○															
		80代 男性	○	○															
		80代 男性	○	○															
		80代 男性	○	○															
		80代 男性	○	○															
		80代 男性	○	○															
		80代 男性	○	○															
④	杖無し	50代 女性	○	○															
	杖有り	60代 男性	○	○															
		70代 男性	○	○															
		70代 男性	○	○															
		80代 男性	○	○															
		80代 男性	○	○															
		80代 男性	○	○															
		80代 男性	○	○															
		80代 男性	○	○															
		80代 男性	○	○															
		80代 男性	○	○															
		80代 男性	○	○															

※現在は杖を使用していないが、過去に心筋梗塞を患い、車いすを利用していた経験がある。

その他		有	無	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p
②	視覚障害者	50代 女性	○																
	カート所持	80代 男性	○																書は2F受付カウンターで案内してもらっていたが、今は無くて不便
		60代 女性	○																
		70代 女性	○																
③	車いす連れ	60代 女性	○																
		80代 女性	○																
		20代 女性	○																
		50代 女性	○																
④	外国人	20代 女性	○																
		70代 男性	○																

(凡例) ①:大久保商店街、②:津田沼1丁目商店街、③:船橋駅前商店街、④:銀座通り

※白杖使用

5.2 商店街（外部空間）利用において意識するバリア（図4・5、表8・9）

利用者が商店街（外部空間）利用で意識するバリアに関して、大久保商店街は80.3%、津田沼1丁目商店街は79.3%、船橋駅前商店街は55.2%、銀座通りは35.4%が意識するという結果を得た。大久保商店街、津田沼1丁目商店街、船橋駅前商店街、銀座通りの順で意識するバリア有無の割合が低い傾向が見られると共に、全ての商店街において商店街（外部空間）で意識するバリアの割合の方が施設（建物空間）利用で意識するバリアよりも高い割合を占める傾向がみられる。年代別の意識するバリア有無に関しても、全体と比較して、各年代における大きな偏りはない。

具体的に、大久保商店街は「走行中の車」が71.6%、津田沼1丁目商店街及び銀座通りは「歩道の凸凹（段差）」がそれぞれ50.7%と61.3%、船橋駅前商店街は「歩道の障害物（自転車）」が50.5%で最も高い割合を占めている。メイン通りが歩車併用道路である大久保商店街において、静的な物理的バリアである「歩道の凸凹（段差）」に関して、子育て世代は意識するバリアとして挙げているが、年代別では他の商店街（メイン通りが面的に歩車分離されている）と比較して低い割合を示しており、走行中の自転車・バイク・車と

図4 商店街（外部空間）で意識するバリアの有無（年代別）

図5 商店街（外部空間）で意識するバリアの種類（年代別・複数回答）

いった動的な物理的バリアについて意識する傾向が強い。

また、「歩道の障害物（自転車）」に関して、船橋駅前商店街の各年代の割合が高い傾向がある。これは歩道に設置されている駐輪スペースにより人が通る有効幅が狭くなっていることが一因であると推察され、津田沼1丁目商店街の肢体不自由者（杖使用者）は「歩道の障害物（自転車等）」を意識する傾向があることから、歩道に設置する、より良い駐輪スペースのあり方に課題があると言えよう。

加えて、男女別に比較すると、商店街（外部空間）で意識するバリアで高い割合を占める項目に関しては、男女で大きな差はみられず、大久保商店街及び船橋駅前商店街においては全ての項目で男女共に同様のものを意識するバリアとして位置付ける結果を得た。年代別にみても、各商店街全ての世代で商店街（外部空間）においてバリアを意識すると回答があり、僅かな差異はあるものの年齢層による偏り傾向（高齢層に集中する等）はみられず、年齢に関わりなく利用者が商店街（外部空間）において、特に歩道における物理的バリアについて意識する傾向が顕在していると言えよう。

表8 商店街（外部空間）で意識するバリア（男女別・複数回答）

商店街	性別	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
① 大久保商店街	男性	走行中の車	走行中の自転車	走行中のバイク	歩道の障害物（自転車）	歩道の障害物（自転車）	歩道の障害物（看板）	歩道の凸凹（段差）
	N=134	71.6%	61.2%	58.2%	40.3%	36.6%	32.1%	25.4%
	女性	走行中の車	走行中の自転車	走行中のバイク	歩道の障害物（自転車）	歩道の障害物（看板）	歩道の凸凹（段差）	歩道の凸凹（段差）
	N=123	71.5%	65.0%	54.5%	47.2%	38.2%	32.5%	26.8%
② 津田沼1丁目商店街	男性	歩道の凸凹（段差）	走行中の自転車	走行中のバイク	走行中の車	歩道の障害物（自転車）	まちの景観・騒音	施設の所在
	N=131	48.6%	38.6%	29.8%	29.8%	25.7%	27.5%	23.7%
	女性	歩道の凸凹（段差）	走行中の自転車	歩道の障害物（自転車）	まちの景観・騒音	走行中のバイク	走行中の車	施設の所在
	N=149	54.4%	35.6%	30.9%	24.8%	22.1%	22.1%	19.5%
③ 船橋駅前商店街	男性	歩道の障害物（自転車）	歩道の凸凹（段差）	走行中のバイク	走行中の車	歩道の障害物（看板）	歩道の障害物（看板）	歩道の障害物（看板）
	N=89	49.4%	43.8%	40.4%	38.2%	34.8%	33.7%	33.7%
	女性	歩道の障害物（自転車）	歩道の凸凹（段差）	走行中のバイク	走行中の車	歩道の障害物（看板）	歩道の障害物（看板）	歩道の障害物（看板）
	N=109	51.4%	50.5%	45.0%	44.0%	43.1%	37.6%	37.6%
④ 銀座通り	男性	歩道の凸凹（段差）	走行中の自転車	施設の所在	歩道の障害物（自転車）	歩道の障害物（看板）	走行中の車	歩道の障害物（看板）
	N=54	51.9%	24.1%	18.5%	16.7%	16.7%	16.7%	14.8%
	女性	歩道の凸凹（段差）	施設の所在	歩道の障害物（自転車）	走行中のバイク	走行中の車	歩道の障害物（看板）	歩道の障害物（看板）
	N=57	68.4%	31.6%	28.1%	28.1%	26.3%	24.6%	24.6%

男性女性共に共通している事項

表9 商店街（外部空間）で意識するバリア（ハンディキャップを抱える利用者別）

バリアについて		有無																備 考	
子育て世代		有	無	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P
①	ベビーカー使用者	20代 女性																	人とのすれ違い
		30代 女性																	
		30代 女性																	
		30代 女性																	
		30代 女性																	道幅が狭い
②	ベビーカー使用者	30代 女性																	ベビーカーが通りづらい
		30代 女性																	道幅が狭い
		30代 女性																	
		30代 女性																	
		30代 女性																	
③	妊婦	20代 女性																	マナー
	妊婦	30代 女性																	
肢体不自由者		有	無	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P
①	杖無し	70代 男性																	
	杖有り	80代 女性																	
	※	50代 男性																	
	杖無し	70代 女性																	
		60代 男性																	
②	杖有り	60代 男性																	
		70代 男性																	
		70代 男性																	
		80代 男性																	
		80代 男性																	夏場の日よけ空間が狭い
		80代 男性																	
		80代 男性																	○
		80代 男性																	
		60代 女性																	
		70代 女性																	
③	杖無し	70代 女性																	人混み
		70代 女性																	○
		70代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
④	杖有り	50代 女性																	○
		60代 男性																	
		70代 女性																	
		70代 男性																	
		80代 女性																	
⑤	杖無し	80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
⑥	杖有り	80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
⑦	杖無し	80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
⑧	杖有り	80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
⑨	杖無し	80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
⑩	杖有り	80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
⑪	杖無し	80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
⑫	杖有り	80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
⑬	杖無し	80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
⑭	杖有り	80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
⑮	杖無し	80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
⑯	杖有り	80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
⑰	杖無し	80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
⑱	杖有り	80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
⑲	杖無し	80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
⑳	杖有り	80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
㉑	杖無し	80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
㉒	杖有り	80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
㉓	杖無し	80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	
		80代 女性																	

5.3 利用目的別にみる利用者が意識するバリア

5.3.1 調査対象利用者の商店街利用目的（図6）

利用者の商店街利用目的に関して、全ての商店街で「買い物」が最も高い割合を占める一方で、大久保商店街では「通り道・通過」目的の利用がその他の商店街と比較して高い割合を占め、船橋駅前商店街以外の商店街では「飲食」目的の利用、船橋駅前商店街や銀座通りでは「仕事」目的の利用が高い割合を占める傾向がある。

図6 利用者の利用目的について（複数回答）

5.3.2 施設利用において意識するバリア（利用目的別）^{注9）}（図7）

利用者が施設利用で意識するバリアに関して利用目的別にみると、大久保商店街では「娯楽（レジャー）」目的の利用者が意識するバリアが有ると最も多く回答し、津田沼1丁目商店街では「飲食」、「待ち合わせ」や「買い物」目的において意識するバリアが有ると回答した利用者が約半数から半数以上と利用目的別に分散傾向がみられた。船橋駅前商店街及び銀座通りにおいては全ての利用目的において約2〜3割が意識するバリアが有ると回答し、目的別に集中する傾向はみられなかった。具体的に、各商店街の利用者が意識するバリアについて利用目的として回答の少なかった「理・美容」や施設利用に直接関わりない「散歩（何となく）」及び「通り道・通過」を除く全ての項目について以下に整理する。

1) 買い物

「買い物」に関して、大久保商店街は26.6%、津田沼1丁目商店街は47.8%、船橋駅前商店街は25.5%、銀座通りは29.1%が意識するバリアが有ると回答した。具体的には全ての商店街で「入り口の段差」が最も高い割合を占める。また、津田沼1丁目商店街及び銀座通りでは「階段」、船橋駅前商店街及び銀座通りでは「施設の広さ（狭い）」についての回答がみられ、全ての商店街で物理的バリアを意識する傾向がある。

図7 施設（建物空間）利用において意識するバリア（利用目的別）

さ（狭い）」についての回答がみられ、全ての商店街で物理的バリアを意識する傾向がある。

2) 飲食

「飲食」に関して、大久保商店街は24.2%、津田沼1丁目商店街は60.7%、船橋駅前商店街は29.4%、銀座通りは24.7%が意識するバリアが有ると回答した。具体的には大久保商店街を除く3つの商店街で「入り口の段差」が最も高い割合を占めており、次いで、津田沼1丁目商店街及び銀座通りでは「階段」が高い割合を占めている。一方で、大久保商店街では「建物前の駐輪や駐車」が最も高い割合を占めており、「買い物」目的の利用者が意識するバリアと異なる傾向がみられる。加えて、津田沼1丁目商店街では「ドアの形状（開き扉）」が他の商店街と比較して高い割合を占めている。

3) 娯楽（レジャー）

「娯楽（レジャー）」に関して、大久保商店街は42.9%、津田沼1丁目商店街は23.1%、船橋駅前商店街は11.8%、銀座通りは30.8%が意識するバリアが有ると回答した。具体的には津田沼1丁目商店街の「店員の接客態度」が他の商店街と比較して最も高い割合を占めており、「入り口の段差」に回答が集中する「買い物」等の利用目的と異なり、心理的バリアに関する回答もみられる。

4) 学習（習い事・稽古事）

「学習（習い事・稽古事）」に関して、大久保商店街は20.0%、津田沼1丁目商店街は27.3%、船橋駅前商店街は15.4%が意識するバリアが有ると回答した。大久保商店街及び船橋駅前商店街では入り口のドアに関連するバリアを意識する傾向がみられる。

5) 待ち合わせ

「待ち合わせ」に関して、津田沼1丁目商店街は52.2%、船橋駅前商店街は18.5%、銀座通りは29.2%が意識するバリアが有ると回答を得た。具体的には、「入り口の段差」に関して銀座通り及び津田沼1丁目商店街での回答が集中する傾向がみられ、船橋駅前商店街では「階段」及び「施設の広さ（狭い）」に回答がみられた。

6) 仕事

「仕事」に関して、津田沼1丁目商店街は51.7%、船橋駅前商店街は19.5%、銀座通りは30.8%が意識するバリアが有ると回答し、「待ち合わせ」目的と同様に大久保商店街では意識するバリアは無いという回答を得た。具体的には、「待ち合わせ」目的の結果とは異なり、船橋駅前商店街の「入り口の段差」が他の商店街と比較して高い割合を占める傾向がみられる。

5.3.3 商店街（外部空間）利用において意識するバリア（利用目的別）^{注9）}（図8）

利用者が商店街（外部空間）で意識するバリアに関して利用目的別にみると、大久保商店街では「娯楽（レジャー）」目的について全ての利用者が意識するバリアが有ると回答し、津田沼1丁目商店街では全ての利用目的で約7割から約9割が意識するバリアが有ると回答しているが、「娯楽（レジャー）」目的利用者は約4割の回答に留まっている。船橋駅前商店街では「仕事」目的利用者の回答が高い割合を占め、津田沼1丁目商店街同様「娯楽（レジャー）」目的利用者は約3割に留まっている。銀座通りでは全ての利用目的において約3割の利用者が意識するバリアが有ると回答し、利用目的別に大きな差はなかった。具体的に、各商店街利用者の意識するバリアについて、回答数が少なかった「理・美容」を除く全ての利用目的項目別に整理する。

1) 買い物

利用目的として最も回答の多い「買い物」に関して、大久保商店街は82.8%、津田沼1丁目商店街は80.1%、船橋駅前商店街は61.0%、銀座通りは36.7%が意識するバリアが有ると回答した。全商店街で物理的バリアに関して意識する傾向があり、大久保商店街では「歩道の障害物」等の静的な物理的バリアより「走行中の自転車等」の動物的な物理的バリアに対して意識する傾向がみられる。

2) 飲食

「飲食」に関して、大久保商店街は81.1%、津田沼1丁目商店街は88.5%、船橋駅前商店街は50.1%、銀座通りは32.5%が意識するバリアが有ると回答した。特に、津田沼1丁目商店街では動物的な物理的バリアと「施設の所在」といった情報のバリアや「まちの景観・騒音」といった心理的バリアを、銀座通りでは歩道に関する物理的バリアを意識する傾向がみられる。

3) 娯楽（レジャー）

「娯楽（レジャー）」に関して、大久保商店街は100%、津田沼1丁目商店街は38.5%、船橋駅前商店街は29.4%、銀座通りは26.9%が意識するバリアが有ると回答した。津田沼1丁目商店街では物理

的バリアに加えて「施設の所在」といった情報のバリアや「客引き・キャッチセールス」や「まちの景観・騒音」といった心理的バリアについて意識する傾向があり、船橋駅前商店街では「歩道の障害物」等の静的な物理的バリアに加えて「わかりづらいサイン計画」といった情報のバリアを意識する傾向がみられ、この2つの商店街では共通して情報のバリアを意識する傾向がみられる。

4) 学習（習い事・稽古事）

「学習（習い事・稽古事）」に関して、大久保商店街は80.0%、津田沼1丁目商店街は68.2%、船橋駅前商店街は46.2%が意識するバリアが有ると回答した。大久保商店街では、「歩道の凸凹（段差）」の回答が無く、他の利用目的とは差異性がみられる。

5) 待ち合わせ

「待ち合わせ」に関して、大久保商店街は80.0%、津田沼1丁目商店街は78.3%、船橋駅前商店街は48.1%、銀座通りは20.8%が意識するバリアが有ると回答した。全ての商店街で物理的バリアに回答が集中しているが、津田沼1丁目商店街及び銀座通りでは情報のバリアを意識する傾向もみられる。

6) 散歩（何となく）

「散歩（何となく）」に関して、大久保商店街は75.0%、津田沼1丁目商店街は78.9%、船橋駅前商店街は40.0%、銀座通りは32.0%が意識するバリアが有ると回答した。特に津田沼1丁目商店街では情報のバリアや心理的バリアを意識する傾向がある。

7) 通り道・通過

「通り道・通過」に関して、大久保商店街は80.0%、津田沼1丁目商店街は80.0%、船橋駅前商店街は53.8%、銀座通りは66.7%が意識するバリアが有ると回答した。大久保商店街を除く3商店街で「歩道の凸凹（段差）」が他の項目に比べ高い割合を占める。

8) 仕事

「仕事」に関して、大久保商店街は80.0%、津田沼1丁目商店街は75.9%、船橋駅前商店街は78.0%、銀座通りは36.5%が意識するバリアが有ると回答した。特に、船橋駅前商店街では物理的バリアを意識する傾向が強く、銀座通りでは「施設の所在」等の情報のバリアに関する回答もみられる。

図8 商店街（外部空間）利用において意識するバリア（利用目的別）

6. まとめ

本研究では施設（建物空間）並びに商店街（外部空間）利用の両面で商店街の問題点や課題の整理並びに、4つのバリアの種別分類を通じて、利用者が意識する商店街別のバリアの特徴や傾向を明らかにし、以下の基礎的知見を得た。

1) 利用者は施設（建物空間）及び商店街（外部空間）において、全世代の男女共に利用の際に意識するバリアが有ると回答し、商店街全体において利用しづらい（不都合や使いづらさを感じる）箇所はハンディキャップや高齢層に限定されることではないことを裏付けたと言える。また、今回得た調査結果から、利用者は施設（建物空間）よりも商店街（外部空間）で意識するバリアが有ると回答する傾向が強く、その割合は超広域型商店街である銀座通りが最も低く、近隣型商店街である大久保商店街では最も高い（銀座通り：35.4%＜船橋駅前商店街：55.2%＜津田沼1丁目商店街：79.3%＜大久保商店街：80.3%）傾向がみられた。

2) 施設（建物空間）において、全ての商店街で入りの段差をバリアとして意識する傾向が強く、入りの段差解消ステップや建物前の駐輪等、外部空間から内部空間に入るアクセシビリティを意識する傾向がある。加えて、4つのバリア種別分類を行った結果、物理的なバリアについて全世代の男女共に、ハンディキャップの有無に関わらず、問題視する傾向が顕在している。特に、入りの段差に関して、箇所数、段差形態や高さに関わらず、利用者はバリアとして認識する傾向があり、改善が必要であることを裏付けたと言える。一方で、利用目的別に利用者が意識するバリアの傾向について各商店街で差異性がみられる。

3) 商店街（外部空間）において、4つのバリア種別分類を行った結果、全ての商店街で全世代の男女共に歩道に関する物理的バリアを意識する傾向がみられる。特に、大久保商店街では走行中の自転車等の動的な物理的バリアを意識し、津田沼1丁目商店街、船橋駅前商店街、銀座通りでは歩道の凸凹（段差）や歩道の障害物といった静的な物理的バリアを意識する傾向がみられ、各商店街のメイン通りの形態が一因であると考えられる。また、施設の所在といった情報のバリアに関して超広域型商店街である銀座通りや地域型商店街である津田沼1丁目商店街で、まちの景観・騒音といった心理的バリアについては津田沼1丁目商店街で高い割合を占める傾向がある。各利用目的別にみても、物理的バリアを意識する傾向が強いが、近隣型商店街である大久保商店街において散歩や通過目的の利用者は歩道の凸凹（段差）をあまり意識しない一方で、その他3つの商店街では歩道の凸凹（段差）を意識する傾向が強いことが判明した。

4) 1)～3)の調査・分析結果をふまえ、各商店街で取り組むことが可能な方策について、以下に示す。

①大久保商店街：入りの段差は歩道の有効幅を確保した適正な段差解消ステップによる改善が望ましく、建物前の駐輪・駐車に関して、施設単位でのマナー対策や歩道の障害物（自転車）等の改善と連携した適切な駐輪・駐車スペース対策が必要であると言える。

②津田沼1丁目商店街：入りの段差や建物前の駐輪・駐車、歩道の障害物に関して、大久保商店街同様の方策が望ましく、まちの景観や騒音については商店会等の運営側による検討が必要と考える。

③船橋駅前商店街：入りの段差解消において、更に狭小な歩道空間を生み出す原因となる段差解消ステップによる改善は望ましくな

く、現在の入り口とは異なる適正なアプローチ空間が必要であると共に、歩道沿いの駐輪スペースについても改善が望ましい。

④銀座通り：景観等のデザインルールがある銀座通りでは、段差解消ステップによる入りの段差解消は望ましくなく、EVに至るまでの階段解消も困難である為、船橋駅前商店街同様、現在の入り口とは異なる適正なアプローチ空間を設けることが望ましい。

今後は、商店街を構成している運営者（施設経営者）が意識する商店街の問題点及び課題について検討すると共に、商店街における問題点・課題の解決手法の検討に向けた更なる展開を課題とする。

謝辞

本研究におきまして、各商店街の商店会会長をはじめとして、聞き取り調査にご協力いただきました方々、本調査・研究に関係する様々な方々に多大なるご協力をいただきました。ここに記して謝意を表します。

注

- 注1) 商店街で営業する販売、飲食、業務、娯楽、教育、病院等を総称して「施設」と表記する。
- 注2) 「バリア」とは、一般的に障がい者等にとって障壁となる事柄を指し、「障害者白書」において4つのバリア（物理的バリア、意識のバリア、制度的バリア、文化・情報のバリア）が定義されている。本研究では、障がい者等に限定せず、商店街利用者が安心・安全の妨げ又は不都合や使いづらさを感じる種々の問題点や課題を「バリア」と定義する。
- 注3) 全ての調査は杖使用身体障がい者1名、健康者3名（日本大学生産工学部大学院生等）で実施した。
- 注4) 事前に用意したバリアの項目は、障害者白書の中で定義されている4つのバリア（物理的バリア、意識のバリア、制度的バリア、文化・情報のバリア）を基に、目視・実測調査から得た結果より作成した。
- 注5) 聞き取り調査の際、バリアの項目は、4つのバリアに分類されていない項目表を用いて実施した。
- 注6) ゼンリン住宅地図、インターネットでの事前調査及び目視調査より、各商店街で運営する施設の業種について日本建築学会・建築資料集成-建築分類法を基に分類している。各ビルに対して複数階に渡りテナントを展開している施設に関しては1件としてカウントしている。（例：Aビルの1階～5階は同じメーカーの衣類販売店の場合は「販売施設・店舗」1件としてカウント）また、百貨店や大型量販店等に関しては、「販売施設・店舗」に分類している。
- 注7) 国土交通省道路局が公表している「平成17年度道路交通センサス一般交通量調査」において、平日12時間交通量の歩行者数は大久保商店街（長沼船橋線）で593人、津田沼1丁目商店街（津田沼停車場前原線）で17,085人、船橋駅前商店街（船橋停車場線）で40,625人、銀座通り（中央通り）で24,870人である。加えて、平日12時間交通量の自転車数は大久保商店街で619台、津田沼1丁目商店街で1,000台、船橋駅前商店街で1,996台、銀座通りで1,198台である。
- 注8) 施設の営業年数並びに施設利用者年齢層について、運営者（施設経営者）に対するアンケート調査を実施している。尚、各商店街の回答率は大久保商店街：87.0%、津田沼1丁目商店街：56.4%、船橋駅前商店街：72.0%、銀座通り：58.3%である。
- 注9) 利用者に対する聞き取り調査では、商店街にきた主要の目的を2つまで回答してもらい、施設（建物空間）並びに商店街（外部空間）において意識するバリアの回答を得ている。従って、調査対象者の各利用目的に対して意識するバリアを捉えている。

参考文献

- 1) 川内美彦：ユニバーサル・デザインの仕組みをつくる スパイラルアップを実現するために、学芸出版社、2007.8
- 2) 熊谷良雄：消費者の購買地選択行動よりみた商店街の配置に関する研究（その1）、日本建築学会論文報告集、第191号、pp.83～88、1972.1
- 3) 熊谷良雄：消費者の購買地選択行動よりみた商店街の配置に関する研究（その2）、日本建築学会論文報告集、第192号、pp.81～86、1972.2

- 4) 佐々木嘉彦、近江隆、山田博人、菅井壮文：購買地選択行動からみた商店街の変動に関する研究 その1 消費者購買行動のモデル化、日本建築学会論文報告集、第291号、pp. 71～77、1980. 5
- 5) 佐々木嘉彦、近江隆、山田博人、菅井壮文：購買地選択行動からみた商店街の変動に関する研究 その2 購買行動変化のモデル・シミュレート、日本建築学会論文報告集、第303号、pp. 111～117、1981. 5
- 6) 森田孝夫：京都の都心商店街活性化計画のための顧客分析、日本建築学会計画系論文報告集、第437号、pp. 27～36、1992. 7
- 7) 森田孝夫：京都の都心商店街活性化計画のための通行量分析、日本建築学会計画系論文報告集、第451号、pp. 115～125、1993. 9
- 8) 大島秀明、天野克也、谷口汎邦：商店街来街者の座りスペース利用に関する研究―巢鴨地藏通り商店街の場合―、日本建築学会計画系論文集、第610号、pp. 41～46、2006. 12
- 9) 金俊豪、三橋伸夫、藤本信義：商店街における休憩スペースの空間構成と利用評価に関する研究、日本建築学会計画系論文集、第615号、pp. 75～82、2007. 5
- 10) 竹内昌史、吉田琢美、兼田敏之：回遊行動からみた商店街複合地区の動態分析―2008年名古屋市中区大須地区調査の結果を中心として―、日本建築学会計画系論文集、第660号、pp. 361～368、2011. 2
- 11) 平田圭子、浅沼則行、菅原辰幸：祭事における商店街来街者の座り空間整備に関する研究、日本建築学会計画系論文集、第663号、pp. 895～902、2011. 5
- 12) 大坂谷吉行、川端智浩：ハートビル法認定建築物の分析とバリアフリーの商店街づくり、日本建築学会技術報告集 第5号、pp. 242～247、1997. 12
- 13) 坂野宏行：高齢者の生活空間としての小売商店街に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集、F、pp. 345～346、1993. 9
- 14) 大屋裕一、園田眞理子、佐藤克志：商店及び商店街における福祉的環境整備のあり方とその経済効果に関する研究 三鷹駅前商店街の周辺住民に対するアンケート結果からの考察、日本建築学会大会学術講演梗概集、E-2、pp. 427～478、2001. 9
- 15) 鴨崎義人、片岡正喜、鈴木義弘、中武啓至、三宮基裕、石津史郎：別府市亀川商店街の車いす利用のための店舗改造の取り組み 別府市太陽の家に隣接する亀川商店街の車いす生活者との共存化に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集、E-2、pp. 441～442、2000. 9
- 16) 石津史郎、片岡正喜、鈴木義弘、中武啓至、三宮基裕、鴨崎義人：別府市亀川商店街における店舗の現状と問題点 別府市太陽の家に隣接する亀川商店街の車いす生活者との共存化に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集、E-2、pp. 443～444、2000. 9
- 17) 湧井志野、園田眞理子：商店及び商店街の福祉的環境整備のあり方に関する研究―高齢者、車いす使用者の買い物行動から見た商店及び商店街の問題点―、日本建築学会大会学術講演梗概集、F-1、pp. 413～414、2001. 9
- 18) 大野拓也、井上芳恵：兵庫県山崎町における商店街の整備課題に関する研究―、日本建築学会大会学術講演梗概集、E-1、pp. 481～482、2001. 9
- 19) 竹内友哉、藤岡泰寛、大原一興：長期利用者を通してみた身近な商店街の多面的評価に関する研究―商学協働事業から地域まちづくりへの発展に関する研究 その5―、日本建築学会大会学術講演梗概集、F-1、pp. 1083～1084、2007. 8
- 20) 中小企業庁委託事業：平成21年度商店街実態調査報告書、2010. 3
- 21) 内閣府：平成23年版 障害者白書、2011年
- 22) 井手郁子、小形涼子：KIRACO Vol. 45、有限会社きらこ編集室、2004. 1
- 23) 井手郁子、小形涼子：KIRACO Vol. 46、有限会社きらこ編集室、2004. 3
- 24) 大久保商店街協同組合：大久保商店街ガイドマップ
- 25) 津田沼一丁目商店会：ぶらり津田沼お散歩 MAP
- 26) 銀座街づくり会議・銀座デザイン協議会：銀座デザインルール 第二版、全銀座会・一般社団法人 銀座通連合会、2011. 12

既発表論文

- i) 野田りさ、川岸梅和、北野幸樹：市街地空間におけるバリアの実態に関する研究―習志野市大久保地区をケーススタディとして―、2009年度日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ、No. 80、pp. 325～328、2010. 3
- ii) 野田りさ、川岸梅和、北野幸樹：市街地空間におけるバリアの実態に関する研究―施設のアクセスに関するバリアについて（習志野市大久保地区をケーススタディとして）―、日本建築学会大会学術講演梗概集、E-1、pp. 681～682、2010. 9
- iii) 野田りさ、川岸梅和、北野幸樹：市街地空間におけるバリアの実態に関する研究（その2）―習志野市津田沼1丁目地区をケーススタディとして―、2010年度日本建築学会関東支部審査付き研究報告集6、pp. 89～92、2011. 8
- iv) 野田りさ、川岸梅和、北野幸樹：市街地空間におけるノーマライゼーションに向けた環境づくりに関する研究（近隣型商店街と地域型商店街の比較からみた考察）、日本建築学会大会学術講演梗概集、E-1、pp. 701～702、2011. 8
- v) 野田りさ、川岸梅和、北野幸樹：市街地空間におけるバリアの実態に関する研究（その3）―船橋駅前商店街をケーススタディとして―、2011年度日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ、No. 82、pp. 285～288、2012. 3
- vi) 野田りさ、川岸梅和、北野幸樹：商店街におけるバリアの実態に関する研究（船橋駅前商店街の利用者・運営者の比較による考察）、日本建築学会大会学術講演梗概集、E-1、pp. 959～960、2012. 9
- vii) Risa Noda and Umekazu Kawagishi: Study on the Welfare Environment in Shopping Streets regarding the Properties of Awareness Barriers and Spatial Barriers Perceived by Users and Operators in Different Shopping Streets, THE 9TH INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON ARCHITECTURAL INTERCHANGES IN ASIA TECHNOLOGICAL ADVANCEMENT IN ARCHITECTURE, October 22～25, 2012, KDJ CONVENTION CENTER, GWANGJU, KOREA

(2012年12月10日原稿受理、2013年5月13日採用決定)